

カ
ネ
カ
ガ
ク
で
ガ
イ
を
ナ
エ
ル
会
社

カネカは実験カンパニー

Kaneka

(証券コード: 4118)

株主のみなさまへ

第102期 中間報告書

2025年4月1日 - 2025年9月30日

株式会社 **カネカ**

カネカは世界を健康にする。

KANEKA thinks “Wellness First”.

カネカは、地球の命に心を寄せ、
食べ物を健やかにする、
人間や動物を元気にする、
ビジネスに活気を与える、
そして社会を明るくする。
この世界を「健康」にしていくために。
カネカは、ますますカガクにできることを広げ、
さまざまなソリューションを通じて、
社会と人々の
願いをかなえていきます。

カネカは命を育む社会を支えます。

CONTENTS

株主のみなさまへ 2
連結業績ハイライト 3
セグメント別概況 4
トピックス 7

連結財務諸表 12
企業データ 13
インフォメーション 14

株主のみなさまへ



代表取締役 社長

藤井 一彦

平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当中間期(2025年4月～9月)の業績および今後の見通しについてご説明申し上げます。

➤ 世界経済の状況 ー深刻な米国関税政策の影響と地政学リスク拡大ー

世界経済の停滞が続いています。
米国は利下げに動く一方、関税政策を背景とした物価高からインフレが進み不透明な情勢となっています。欧州の景気は当面減速、中国経済は内需不振と米国向け輸出の低調が重なり景気不振にあえいでいます。国内は海外経済の影響を受けて円安と消費者物価上昇および深刻な人手不足が続く、企業収益が下押しされています。
米国関税政策をめぐる世界経済への影響は長期化が予想され、先行きはますます不透明な状況です。

➤ 当社グループの業績 ー増収、純利益は増益ー

このような状況下、当社グループの当中間期の業績は、売上高3,974億2千8百万円(前年同期比0.4%増)、営業利益149億6千3百万円(前年同期比21.7%減)、経常利益117億6千2百万円(前年同期比18.3%減)、親会社株

主に帰属する中間純利益110億4千9百万円(前年同期比8.7%増)となりました。
売上高は前年同期比で増収を確保し、営業利益・経常利益は減益となりましたが、純利益は増益となりました。

➤ 全体像の俯瞰

Medicalは成長のスピードが加速し業績を牽引しています。Pharmaの本格的な回復は第4四半期になりますが、Health Care SU全体としては好調が続いています。
QOL SUはE & Iの回復が遅れ、前年同期比は小幅な減益となりました。
Supplementは好調を維持しましたが、Foodsの出遅れが響いてNutrition SU全体としては減益となりました。Foodsは下期回復を見込んでおり、Nutrition SUの年度計は増益を計画しています。
Vinylsの低迷とMOD・MSの停滞が響き、Material SUは減益となりました。Material SUの減益が全社業績下振れの主要因となりました。
このような状況下、先端事業群(MS, E & I, PV, Medical, Pharma, Supplement)では差別化技術による拡販が進み、営業利益に占める割合が50%を超えることとなりました。事業ポートフォリオ変革が着実に進展しています。

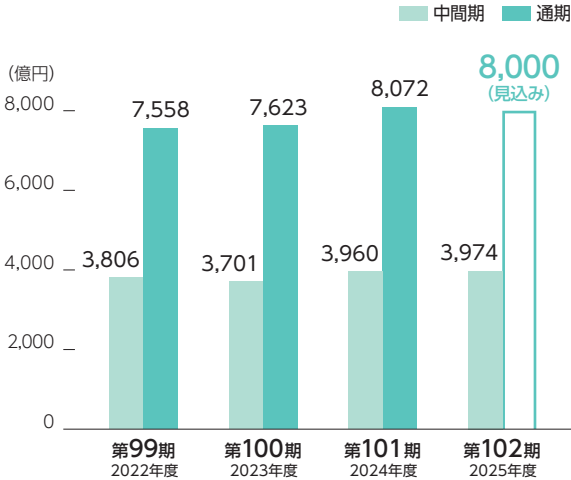
➤ 今後の見通し

世界経済は、米国関税問題が深刻化し、影響のさらなる長期化が懸念されます。また、地政学的リスクや為替変動など不確実な要素も根強く、経済の先行きは予断を許さない状況です。
このような状況下、当社はライフサイエンス領域を強化し、カネカならではの差別化技術により先端事業が成長を牽引するポートフォリオ変革を急ぎます。下期は、Health Care・QOL・NutritionのSU群を中心に、強い収益回復のモメンタムが戻ってくる見通しです。Materialも上期を底に業績が回復する見通しです。

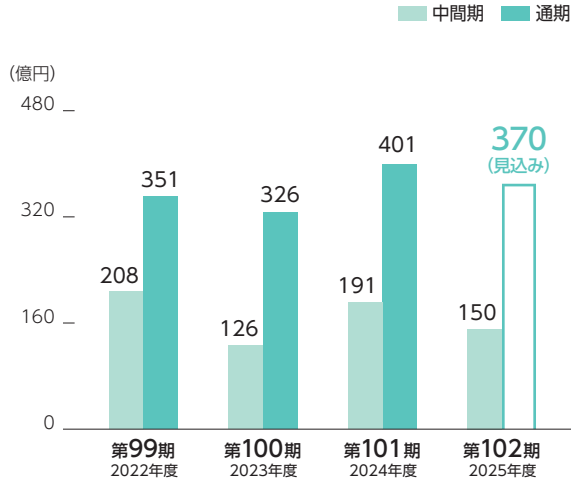
中間配当金につきましては、1株あたり80円とさせていただきます。株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

連結業績ハイライト（推移/2025年度中間期および通期見込み）

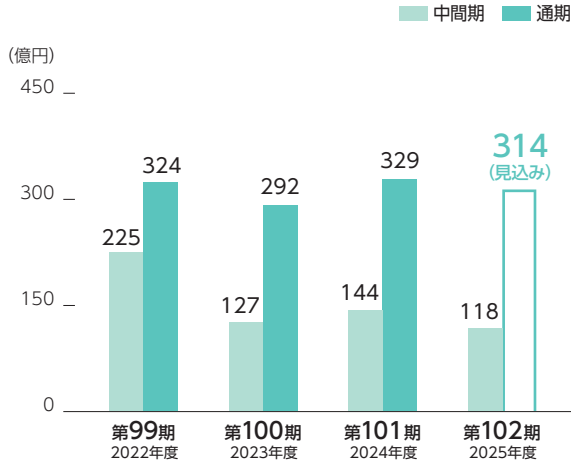
売上高



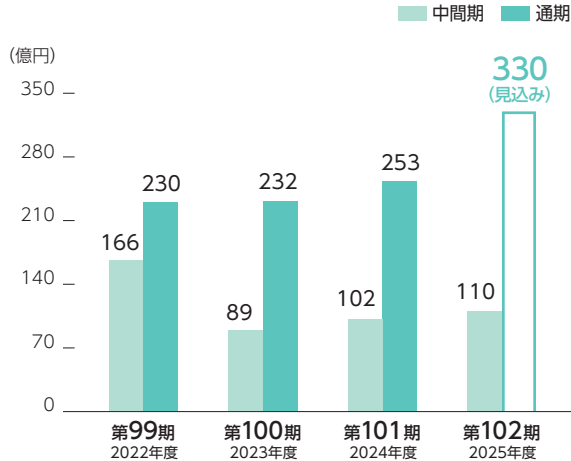
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益

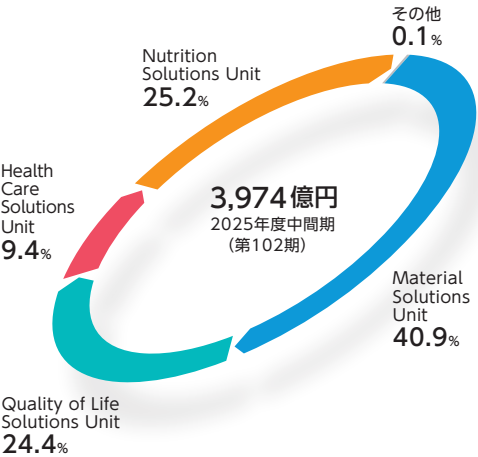


セグメント別概況（2025年度中間期）

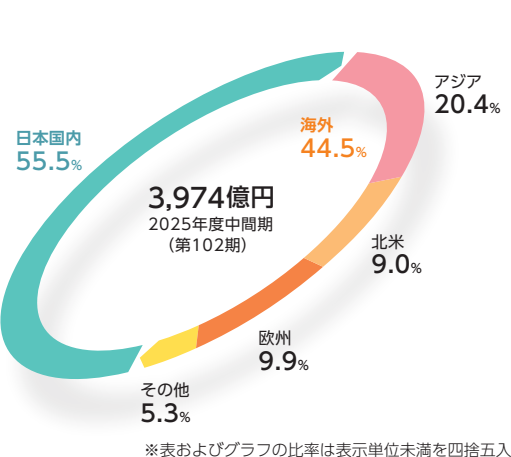
セグメント別売上高・営業利益

	売上高		営業利益	
	2025年度中間期 (第102期)	前年同期比	2025年度中間期 (第102期)	前年同期比
Material Solutions Unit	1,625	△74 (△4.4%)	126	△35 (△21.6%)
Quality of Life Solutions Unit	970	36 (3.9%)	94	△1 (△1.2%)
Health Care Solutions Unit	373	10 (2.6%)	60	6 (10.3%)
Nutrition Solutions Unit	1,001	43 (4.5%)	60	△5 (△7.7%)
その他	5	0 (8.1%)	2	0 (11.0%)
調整額	—	—	△192	△6 (—)
計	3,974	15 (0.4%)	150	△41 (△21.7%)

セグメント別売上高構成比



地域別売上高構成比



各Solutions Unitの詳細は次のページをご確認ください▶

セグメント別概況

Earthology Chemical Solution

化学素材の無限の可能性を引き出し、持続可能型社会を支え、地球環境と生活の革新に貢献します。

Material Solutions Unit

素材の豊かさを引き出し、生活と環境の進化を支える
Material Value Creator

当中間期の概況

アジア市況の低迷が継続し米国の住宅・建築市場の需要低調と重なり、全体では減収減益

- Vinylsは、か性ソーダは前年の販売を上回りましたが、塩ビのアジア市況の低迷が続く、前年を下回る収益となりました。第4四半期以降の回復を見込んでいます。
- MODは、米国の住宅・建築市場の需要調整が継続し減益となりました。非塩ビ用途・MXなどの差別化力ある高付加価値製品の拡販に注力しています。
- MSは、第1四半期を底に欧米での需要が回復しています。欧州での拡販や他材料からの置換が進み、下期以降のグローバル需要の回復を見込んでいます。
- Green Planet®は、大型案件での顧客評価が順調に進んでいます。下期からの販売拡大に向けて供給体制の強化を着実に進めています。

Quality of Life Solutions Unit

素材の力で生活価値の先端をプロデュースする
Quality of Life Pathfinder

当中間期の概況

Fiberの好調な販売、Foamの収益向上により全体では前年並みの利益

- Foamは、価格改定・コストダウンなどスプレッドの改善が進み増益となりました。引き続き採算性の向上に取り組み、収益拡大を図ります。
- E & Iは、ポリイミドフィルム・光学用アクリル樹脂の高水準の販売が続きましたが、原料高騰や為替影響により前年を下回る収益となりました。高付加価値グレード(高周波ポリイミド・アクリル樹脂改良品など)の拡販をさらに進め、収益拡大を実現します。
- PVは、国内住宅向け高効率太陽電池の販売が堅調に推移しました。建材一体型PVの市場拡大が進むとともに、次世代太陽電池(ペロブスカイト)におけるタンデム型の技術開発が着実に進展しています。
- Fiberは、頭髮製品の販売が好調に推移し増益となりました。難燃ファブリック分野は一部原料の急騰によりスプレッドが低迷しましたが、グローバル需要は確実に伸長しており事業基盤の拡大が進んでいます。

Active Human Life Solution

化学を軸に、食と医療を一つと捉え、人々に健康で活力のある人生をもたらす革新的なソリューションを提供します。

Health Care Solutions Unit

革新医療がより多くの患者に届けられる世界を創る
Medical Edge Explorer

当中間期の概況

Medicalの躍進が目覚ましく増収増益、下期も一層の収益拡大を見込む

- Medicalは、血液浄化器およびカテーテルで飛躍的な拡販が進み、当社最大の収益事業となりました。北海道新プラント(苫東工場、血液浄化器)は早々に戦力化を果たし、続くカテーテル新プラントの建設も順調に進んでいます。Medical事業の一層の成長を目指します。
- Pharmlは、バイオ医薬品の定修の影響や販売案件のずれ込みもあり、収益は低調に留まりました。低分子・バイオ医薬品の新規案件の実績化に向けた取り組みが進んでおり、下期以降は収益が大きく回復する見通しです。国内外での研究開発を強化しドメインを拡大する投資に注力しています。

Nutrition Solutions Unit

食と健康に革新をもたらす
Nutrition Value Chain Innovator

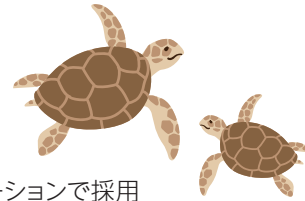
当中間期の概況

好調なSupplementに加え、Foodsの高付加価値品シフトが進んだものの、増収・減益

- Supplementは、還元型Q10が米国市場を中心に拡販が進み、増益となりました。下期はグローバル市場で拡販がさらに進み、収益は着実に伸長する見込みです。
- Foods & Agrisは、第2四半期の価格改定および高付加価値品へのシフトが進み、スプレッドが改善しました。下期も高付加価値品へのシフト・「B2C」事業での新製品の拡販を進め、高水準の収益を確保する見通しです。



Green Planet®の幅広い展開 ～世界のサステナブル社会の実現に貢献～



当社が開発したカネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®は、多様なアプリケーションで採用が拡大しています。土壌中のみならず海水中でも容易にCO₂と水に生分解される特長を持っているため、プラスチックによる海洋汚染問題の解決に貢献します。

ミズノ 屋内型スポーツ用人工芝葉・充填材

ミズノ株式会社と共同で屋内型スポーツ用人工芝葉および充填材を開発しました。スポーツ用途として使用可能な高い耐久性と一般的な人工芝に近い風合いを実現しました。



ソニー 大型テレビ用緩衝材

ソニー株式会社の包装設計の技術的な知見と当社の材料成型技術を用いた発泡成形品が採用されました。家電製品の緩衝材にGreen Planet®発泡成形品を用いる事例は世界初*となります。
※カネカがGreen Planet®を原料に製造した家電製品の緩衝材として。(2024年4月現在、カネカ調べ)



Green Planet®の幅広い展開

スターバックス ストロー

飲み心地の良さと環境負荷低減を両立した素材として、スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社のストローとして採用されています。



JAL 国際線機内食容器

株式会社JALUXとリユース可能な食品容器を開発し、JAL国際線で提供される機内食の副菜容器に採用されています。



(Green Planet®製の副菜容器は写真内の上3点)

還元型コエンザイムQ10の多種多様な形態・分野への展開 ～世界中の人々の健康を推進～

当社は独自技術を活かし、還元型コエンザイムQ10を多様な形態や分野へ展開し、健康やライフスタイルに寄り添います。

コエンザイムQ10の新たな技術・機能性



「結晶化技術」と「粉体加工技術」により、酸化されにくい還元型コエンザイムQ10の開発に成功し、7月に「わたしのチカラ® 還元型コエンザイムQ10 タブレット」を発売しました。

肌とストレスにアプローチする還元型コエンザイムQ10を100mg配合した機能性表示食品「わたしのチカラ®『カネカQ10® 果実グミ』」の新しいフレーバーとして、7月に和梨味を発売しました。



還元型コエンザイムQ10を100mg配合し「肌のうるおいを保つ」機能と「睡眠の質の向上に役立つ」機能が備わった機能性表示食品「わたしのチカラ® Q10 ヨーグルトうる肌ケア・睡眠ドリンクタイプ」を4月に発売しました。



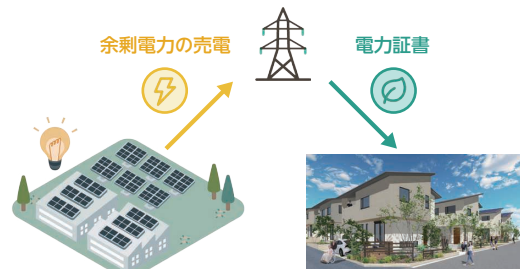
「わたしのチカラ®」シリーズとして、独自の乳化技術での水溶性製剤開発により、常温・ロングライフの還元型コエンザイムQ10配合ドリンク「わたしのチカラ® Q10 ドリンク すこやかリズム®」を9月に発売しました。



地域循環共生型の都市エネルギーモデルを構築

～さいたま市の脱炭素街区形成事業に選定～

当社は、株式会社高砂建設(本社：埼玉県蕨市、社長：風間 健)と「さいたま市脱炭素先行地域事業における脱炭素街区形成事業」に共同応募し選定されました。さいたま市は全国初の「脱炭素先行地域」として、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた先進的な取り組みを推進しています。



オンサイトPPAの余剰電力をZEH街区に供給

本事業に必須となるZEH住宅※2には、当社の太陽電池および自然エネルギー活用技術を採用しており、夜間など自家発電のみで電力需要を満たせない場合は、さいたま市内の工場屋根等を活用した当社オンサイトPPAサービスによる電力利用によって補完※3、再エネ100%の脱炭素街区を構築します。本取り組みをモデルケースとして、今後は他地域へ水平展開し、脱炭素化に貢献していきます。

※1 オンサイトPPA(Power Purchase Agreement)とは、企業の敷地内に第三者が太陽光発電設備を設置し、発電した電力を企業が購入する契約形態。
 ※2 ZEH(ゼッチ)住宅とは、住宅の年間一次エネルギー消費量の収支が太陽光発電で実質ゼロ以下になるよう設計された住宅。
 ※3 当社オンサイトPPAサービスの余剰電力を利用し、再生可能エネルギー電力証書付き電力として供給する。



夜間も太陽光発電による再エネ100%で暮らせるZEH住宅(イメージ図)

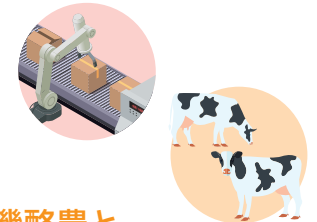
オンサイトPPA※1を活用した、再エネ100%の脱炭素街区の構築や、電力の地産地消の推進、グリーンインフラと安心安全な暮らしをテーマにした地域循環共生型の都市エネルギーモデルが高く評価されました。



植栽を配した歩行者道など、グリーンでつながる街並み(イメージ図)

未来をつくるものづくり

～先端医療と有機酪農乳製品で描く持続可能な社会～



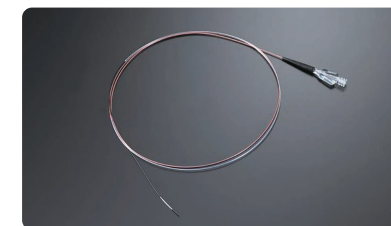
先端医療を支えるスマートファクトリーと革新的デバイス

当社は2024年8月に竣工した血液浄化器プラントに次いで北海道の苫東工場内にカテーテルの新プラント建設を決定しました。2027年3月の稼働を予定しています。



苫東工場カテーテルプラント(イメージ図)

国立大学法人大阪大学との共同研究成果を基に開発した、気管支拡張用バルーンカテーテル(商品名：SUKEDACHI®)を6月より販売開始しました。



SUKEDACHI®

自然と調和する有機酪農と新しい食文化

北海道・別海ウェルネスファームで、環境負荷低減と持続可能性を両立する有機循環型酪農に取り組んでいます。牛や人、環境にやさしい技術を結集し、SDGsの普及にも貢献しています。新商品「ピュアナチュラルオーガニックドリンクヨーグルト」を発売し、健康志向のニーズに応えています。



放牧により育てられた乳牛の排泄物は、有機飼料を栽培する際の堆肥として活用。カネカでは、北海道にグループ会社(株式会社別海ウェルネスファーム)を設立し、有機循環型酪農を実践しています。



ピュアナチュラルオーガニックシリーズ ラインアップ

カネカのESG経営最前線

～持続可能な社会の実現に向けた新たな一歩～



北海道マラソン2025への協賛

当社は、日本唯一の夏に開催されるフルマラソンの競技会である北海道マラソンに2013年から協賛しています。本大会にはカネカグループから123名が参加し、新商品の「すすむチカラ® 筋肉ケア™習慣サポート」や、当社おなじみの還元型コエンザイムQ10の紹介、そしてランナー向けのイベントを通してアスリートのみなさまを応援しました。

北海道マラソンでは、当社ロゴをアスリートビブス、フィニッシャーズタオル、各地点のタワーに掲出しました。アスリートビブス配布用の手提げ袋には、今年も当社のカネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®を使用し、サステナブルな大会づくりに貢献しました。



グローバルリーダー育成研修

「Kaneka Creative Corner」開催

当社は2016年度より、海外グループ会社のナショナルスタッフを対象に、次期リーダー育成を目的とした研修を実施しています。今年度は「Kaneka Creative Corner 2.0」として日本人社員を含む選抜メンバー10名が参加し、8月にPhase1を開催しました。国籍や所属を越えて協働し、「カネカをどう変革するか」といったテーマで議論を深め、経営層の助言を受けながら行動変革に取り組んでいます。



連結財務諸表

■ 中間連結貸借対照表(要約)

(単位:億円)

科 目	第102期	第101期
	2025年9月30日現在	2025年3月31日現在
資 産	流動資産	4,458
	固定資産	4,787
	資産合計	9,245
負 債	流動負債	3,003
	固定負債	1,281
	負債合計	4,284
純 資 産	株主資本	4,014
	その他	947
	純資産合計	4,961
負債純資産合計	9,245	9,201

Point

- **総資産**は、棚卸資産、有形固定資産の増加などにより前期末に対して44億円増加の9,245億円となりました。
- **負債**は、仕入債務の減少などの一方、借入金の増加により7億円増加の4,284億円となりました。
- **純資産**は、利益剰余金の増加などにより37億円増加の4,961億円となり、自己資本比率は51.3%となりました。

■ 中間連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

科 目	第102期	第101期
	2025年4月1日から 2025年9月30日まで	2024年4月1日から 2024年9月30日まで
売上高	3,974	3,960
営業利益	150	191
経常利益	118	144
税金等調整前中間純利益	168	156
親会社株主に帰属する中間純利益	110	102

Point

- **売上高**は、前年同期に比べ15億円の増収(前年同期比0.4%増)となりました。
- **営業利益**は、前年同期に比べ41億円の減益(前年同期比21.7%減)となりました。
- **経常利益**は、前年同期に比べ26億円の減益(前年同期比18.3%減)となりました。
- **親会社株主に帰属する中間純利益**は、前年同期に比べ9億円の増益(前年同期比8.7%増)となりました。

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:億円)

科 目	第102期	第101期
	2025年4月1日から 2025年9月30日まで	2024年4月1日から 2024年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	246	230
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 153	△ 304
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 94	16
現金及び現金同等物の中間期末残高	443	381

Point

- **営業活動**によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益や減価償却費などにより246億円の収入となりました。
- **投資活動**によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などにより153億円の支出となりました。
- **財務活動**によるキャッシュ・フローは、配当金の支払や自己株式の取得により94億円の支出となりました。この結果、**現金及び現金同等物の残高**は、443億円となりました。

※詳細は、当社WEBサイトをご覧ください。

企業データ

(2025年9月30日現在)

■会社概要

社名 株式会社 **カネカ**
(KANEKA CORPORATION)

東京本社 〒107-6028
東京都港区赤坂一丁目12番32号
(アーク森ビル)
TEL 03-5574-8000(代表)

大阪本社 〒530-8288
大阪市北区中之島二丁目3番18号
(中之島フェスティバルタワー)
TEL 06-6226-5050(代表)

設立年月日 1949年9月1日

資本金 33,046,774,709円

ホームページ <https://www.kaneka.co.jp/>

■役員

代表取締役会長	菅原 公一
代表取締役社長	藤井 一彦
取締役副社長	亀高 真一郎
取締役副社長	角倉 護
取締役常務執行役員	泥 克信
取締役常務執行役員	榎 潤
取締役常務執行役員	小森 敏生
取締役常務執行役員	木村 雅昭
取締役(社外)	毛利 衛
取締役(社外)	横田 淳
取締役(社外)	笹川 祐子
取締役(社外)	三宅 宏実
監査役(常勤)	石原 忍
監査役(常勤)	岸根 正実
監査役(社外)	藤原 浩
監査役(社外)	魚住 泰宏

■株式の状況

発行可能株式総数 150,000,000株

発行済株式の総数 66,000,000株

株主数 29,038名

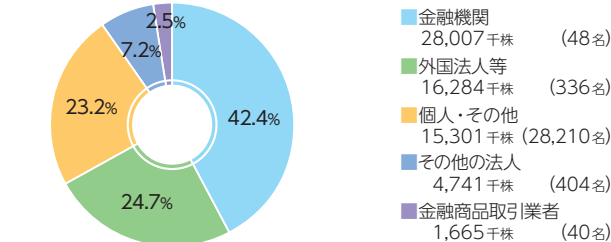
1人あたり平均持株数 2,273株

■大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,183	11.69
日本生命保険相互会社	3,114	5.07
株式会社三井住友銀行	2,937	4.78
明治安田生命保険相互会社	2,825	4.60
株式会社三菱UFJ銀行	2,193	3.57
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,186	3.56
三井住友海上火災保険株式会社	2,104	3.43
カネカ取引先持株会	1,421	2.31
カネカ従業員持株会	1,323	2.15
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	1,243	2.02

(注) 1. 持株数は表示単位未満を切り捨て
2. 持株比率は、自己株式数を除いた発行済株式の総数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入
3. 上記のほか、当社が保有している自己株式は4,550千株

■所有者別株式分布状況



(注) 1. 株式数は表示単位未満を切り捨て
2. 比率は小数第二位を四捨五入

インフォメーション

■WEBサイトのご案内

統合報告書や、最新のリリースなどをご覧になれます。引き続き、内容の充実と、適時適切な情報開示を行ってまいります。

▼IR情報

統合報告書は
当社WEBサイトから
チェック!



■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	電子公告 https://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)

〈カバーアート〉アーティスト：曾谷朝絵
・タイトル：Windy Forest
・制作年：2024年

■配当金の受け取り方法

配当金の受け取り方法は3つあります。②または③は、支払い開始日当日の受け取りが可能です。また、**支払い開始日から満3年を経過した配当金は受け取りができなくなります**ので、口座振り込みをぜひご活用ください。

① 郵便局などの窓口

「配当金領収証」を持参し、郵便局などで受け取り

おすすめ!

② 証券口座への振り込み

各証券会社の証券口座で受け取り

③ 銀行口座などへの振り込み

指定の金融機関口座で受け取り
(個別銘柄ごとの指定も可能)

問い合わせ先

現在の受け取り方法の確認や変更など、配当金の口座振り込みに関する問い合わせは、お取引先の証券会社(口座管理機関)にお申し出ください。

手続き窓口

- 住所変更、買取請求などの手続きは、口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する手続きについては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金については、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

UD FONT
by MORISAWA
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

